



ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより 10月号 (No.11)

令和2年10月30日発行

個性が輝いた「ひすいの文化祭」

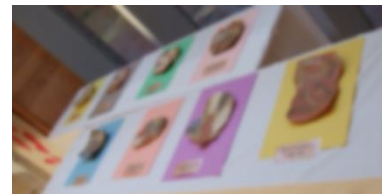


肌寒かった10月17日(土)、その寒さを吹き飛ばすかのような、にぎやかで楽しいひすいの里総合学校の「文化祭」<ひすい発表会・作品展(～23日)>でした。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、糸魚川小学校との「合同文化祭」なのですが、形態を変えて「合同音楽発表会」は行わず、学校別に実施しました。体育館入口では、検温による健康チェックと手指消毒、マスク着用による飛沫対策、三密を避けるために学部別発表として入場者の人数を減らすなど、例年とは異なる対応をとりました。ご来校いただいた皆様にはお手数をお掛けしましたが、ご理解とご協力をいただき、無事に開催できたことを喜んでいるところです。

さて、子どもたちの発表や図工・美術作品はいかがでしたか。ひすい発表会の子どもたちは、緊張感のある表情や仕草の中にも、ご家族の皆さんに観てもらえる喜びが表れていたと思います。小学部は、楽しさ溢れる活動的な発表でした。オープニングでハンドベルを鳴らしたり、太鼓をたたいたり、秋祭りの神輿を担いで元気な掛け声を出したりしました。「ええじゃないか」のダンス・パフォーマンスは小学部の真骨頂でした。一方、中学部はしっかりと落ち着いた発表でした。「カントリーロード」は、個々の生徒がタイミングよく発声して歌をつないだり、丁寧な手話表現で歌詞のメッセージを伝えたりしました。「アメージング グレイス」のトーンチャイムの綺麗な音出しとハーモニーは、中学部生としてのプライドとまとまりを感じました。今更ですが、全ての皆さんにご覧いただけたら良かったと思います。

図工・美術作品も音楽発表に勝るとも劣らないものでした。小学部の「思い出の絵」「お話の絵」は、一人一人の思いが表れた大胆でリズムのある絵でした。また、ビニール傘を使った「そらもよう」は、光のシャワーを浴び、下から見上げてみても上から見下ろしてもカラフルで、子どもたちのときめきが伝わってきました。電飾ライトもいいのですが、実際に雨を降らせて見てみたいと思ったのは私だけでしょうか。さらに、先号で紹介した糸魚川小学校の4年生との共同作品の展示は、「わひわひ美術回廊」とでも言うべきもので、外の光を浴びて、赤煉瓦とマッチした趣のある雰囲気醸し出していました。中学部の「シール版画」は、色の選択とシール模様の偶然性から生まれた印象に残るものでしたし、「思い出の一枚」もこだわりのある一場面を描写した絵でした。また、「お皿」は、色粘土の組み合わせや発色の面白さ、型押しなどの模様が多様で、観る者を楽しませてくれました。

新型コロナウイルス感染症対策をとりながらのコンパクトな文化祭でしたが、一方で子どもたちの学びの様子がよく見えた実感の伴う行事になったと思います。2学期後半になりますが、今後ともご協力をお願いいたします。



修学旅行に行ってきました！

今号では中学部の修学旅行について紹介します。

<中学部だより No.8、「ひだまり だより」No.6より抜粋>



科学館で魔法ショー！



初体験のろくろの陶芸が大成功！ はいポーズ！



10月1日、2日の1泊2日で、上越、柏崎、長岡方面に修学旅行に行ってきました。1日目は、上越科学館の見学と西山自然体験交流館で陶芸体験をしました。初めてのろくろでは、回転する粘土におっかなびっくりでしたが、皿などをうまく作ることができました。2日目は、新潟県立歴史博物館を見学しました。蓬平温泉「和泉屋」で宿泊し、とても楽しい2日間となりました。

